

根上中だより

E-mail neagari-jhs@nomi.ed.jp

HP <https://cmsl.ishikawa-c.ed.jp/neagari/>

発行者 根上中学校校長 大下 佳宏

TEL 0761-55-0160

FAX 0761-55-0456



■人権作文 鈴木さん(2年)が最優秀賞を受賞！

令和6年度全国中学生人権作文コンテスト石川県大会において、2年生の鈴木悠斗さんの作文が、9,564点の中から最高賞である最優秀賞(金沢地方法務局長賞)を受賞しました。今、世の中では、多様性を認め、互いの人権を尊重しあえる社会づくりが求められています。鈴木さんは、自分たちにもすぐてき人権を守るための大切なことを、しっかりと訴えてくれています。全文を以下に掲載し、鈴木さんの素晴らしい作文を紹介したいと思います。ぜひ、ご一読ください。



「小さな母の大きな武器」 根上中学校 2年 鈴木 悠斗

僕の母の身長はとても低い。だいたい小学校三・四年生位の身長だ。だから遠くから見てもとても目立つ。

僕が母と買い物に行った時のことだ。知らない人が母を見て「あの人小さいね。障がい者かな」と言っているのが聞こえた。それは一度のことだけでなく、「見てあの人…」「めっちゃちっさ」という言葉や、母を見て隣の人とこそそ話している姿は僕と一緒に行く買い物だけでも何度も目にした光景だ。たぶん隣にいた母にも聞こえているはずだが、どんな時も母は何も聞こえていないようないつも通りの顔で買物を続けている。

僕は母にあんなことを言われてムカつかないのかと聞いたことがある。その時母は「まあ腹が立つこともあるけど、身長は自分の努力では変えられないし、誰かに迷惑をかけているわけじゃない。見た目でしか人を判断しない貧しい心を持った人だと思ってしまうようにしている」と言った。そして「この身長だから覚えてもらえるし、かわいがってくれる人も多から得なこともある。人と違うは武器になるんだよ。それに十分稼いでいるから問題ないでしょ」と豪快に笑った。僕には母の言葉の意味がよく分からなかったが、そんな母を見てすごいなと思った。きっと知らない誰かに何かを言われることは、母にとってはよくあることなのだろう。でも知らない人からの心無い言葉に慣れてしまうほど、母は何度も同じような言葉を言われていたのかと考えると少し悲しくなった。それに買い物に行くだけでもこんな事があるのだから、きっと仕事やそれ以外でも同じ様なことがあるのだろうと僕は思った。

夏休みに入ってからすぐ、僕は母の働く様子を観察するチャンスがきた。母は僕が知る限り日本で一番小さい看護師だ。ちょこちょこ動き回る母の姿は思った通り病院でも目立っていた。だからなのか通りすぎる患者さんからよく声をかけられて、立ち止まって話をしている。僕は母のそんな姿をみて母が言っていた「かわいがってもらってる」という意味がなんとなく分かった。僕が母を観察していた日、病院にいた誰も母のことを馬鹿にすることもなく、母の低い身長はただの目印のようだった。もしも病院中の看護師さんが並んだとしても、誰も母を他の看護師さんと間違えることは

はないだろう。『人と違うは武器になる』母が言ったその言葉は、母らしい考えだと思った。普通と違うことを強みにして、母は誰にも真似できない最強の武器を持っていたのだ。最強の武器を装備して楽しそうに働く母の姿を見て、僕は何を心配していたのだろうかかと少し馬鹿馬鹿しい気持ちになった。でもそれ以上に安心とうれしい気持ちが大きかった。



見た目が他の人とは違うこと。それが自分の努力だけでは解決できないことならば普通と少し違うというだけで嫌な言葉を言われたり、変な目で見られるのはとても悲しいことだと思う。買い物の時に感じた視線や言葉には、母を馬鹿にしたような、見下しているようなそんな意味が込められている様な気がして僕は悲しい気持ちと同時に腹が立っていたのだ。でも母は背が低いだけで他の人と同じように何でも出来るし、見た目からは想像できないほどのパワーがある。むしろパワフルすぎて、確かにある意味普通でないと思うこともある。でも普通ではないことは決して悪い事ではないし、非難されたり馬鹿にされるようなことではないはずだ。

僕たちは毎日の生活の中で、普通かそうでないか、外見がどうかと自分と相手を比べて優劣や順番をつけがちだ。人権を考えるとと言われるととても難しいように感じるが、それは相手を大切にすること、つまり相手と比べて優劣を決めつけたり自分の考える「普通」から外れた人を蔑んだり馬鹿にしないという事だと思う。相手を知ること、勝手に決めつけないこと、人との違いを受け入れること、そんな簡単なことが人権を守るために必要なことなんだと思う。



同じく2年の駒田真陽路さんの作文「震災から学んだこと」も見事入選し、県で30点余りしかない表彰を受けています。鈴木さん、駒田さん、二人とも本当におめでとうございます！

■寺西成騎選手 夢のプロ野球選手に！

本校の卒業生(H29年度)である寺西成騎選手が、プロ野球オリックスバファローズにドラフト2位指名で入団しました。先日は、中学生当時の恩師の先生方の有志で作ってくれた懸垂幕も体育館陶壁横に掲げられ、応援ムードが盛り上がっています。

寺西選手は中学3年生の国語の時間に、将来について漢字一字で「夢」と書き記し、そこに込めた思いを次のように綴っています。



自分の夢を叶え、人に夢を与え、夢は叶うことを証明したい。
夢はプロ野球選手。

ケガなどの困難を乗り越え、強い意志で自分の夢を叶えた寺西選手。今後は、人々に夢や希望、元気や勇気を与えてくれるプロ野球選手として活躍してくれることを祈っています。プロ野球の華やかな舞台上、背番号「13」が躍動する姿を見られることを楽しみにしています。母校・根上中学校のみんなが応援しています。頑張れ！寺西選手！

韓国・培材中学校 6年ぶりの根上中訪問

本校の姉妹校である韓国の培材中学校親善使節団（中学生10名・引率4名）が1/18(土)～1/21(火)の4日間、能美市を訪問されます。コロナ禍の影響もあり、H30年度依頼6年ぶりの来日となります。両校は、男子バスケットボール部の親善試合をきっかけに、1972年から50年以上にわたり国境を越えて友情を育んできました。1/19(日)にはホストファミリーとの交流、1/20(月)には根上中での歓迎式や授業交流なども予定しています。久しぶりに培材中学校の皆様とお会いできるのが、とても楽しみです。



学校HPは、
ぜひこちら
からご覧ください！

